

## 担当役員メッセージ



**省エネに注力しながら、  
徹底した小型・高効率化や  
脱炭素思想に基づくものづくりを  
推進しています**

常務執行役員 第一事業本部担当  
村井 俊二

## 環境に対する考え方

### あらゆる事業活動の環境負荷を低減

太陽誘電は環境基本理念に従い、グローバルな視野に立った環境影響の改善に取り組んでいます。生産時のエネルギーや水の使用などを中心に、環境影響を細かく把握・分析するとともに、投入する資源の最小化やプロセス改善による省エネルギー・省資源など様々な施策を講じて環境影響の改善に努めています。

中でもGHG排出量削減に関しては、カーボンニュートラルを目指した環境中期目標を設定しています。現在はSBT1.5°C目標に準じた目標の達成に向けて取り組みを進めており、2030年度の達成に向け、順調に進捗しています。

## 気候変動への取り組みについて

### 省エネ、創エネ、再エネの推進で、 GHG排出量削減を実現

当社は、環境影響の中でも気候変動への対応に重点を置いています。中期経営計画2025においては気候変動への対応強化をマテリアリティに設定し、GHG排出量削減の数値目標を設定することで取り組みを加速しています。

具体的には、省エネ、創エネ、再エネの3つのアプローチで活動しています。省エネでは、高効率な生産設備の導入や生産プロセスの改善、燃料転換などを実施し、拠点や工場新設の際には先進的な省エネ設計の建築物や省エネ設備を導入しています。また、創エネでは太陽光発電設備の導入を拡大し、再エネにおいては、海外拠点も含めた使用電力の再生可能エネルギーへの転換を進めています。2023年度は、2020年度比で13.5%のGHG排出量を削減するこ

とができました。

また、当社はTCFDに賛同し、気候変動への具体的な取り組みの推進と同時に、シナリオ分析の実施や開示内容の拡充に努めています。これらの活動が評価され、「CDP気候変動」Aリスト企業に2年連続で選定されました。

## サプライチェーンにおけるGHG削減

### サプライヤーとの協力関係を構築し、 Scope3の排出削減を推進

現在、GHG排出量のおよそ7割を占めるScope3の削減目標の設定に向けた準備を進めており、中でも、Scope3の3分の2を占めるカテゴリ1(購入した製品・サービス)については、サプライヤーへの働きかけに力を入れています。

当社では、主要サプライヤーを対象とした説明会を毎年開催しており、当社のサステナビリティに関する方針や取り組みについての説明、個別の面談などを通じて、サプライヤーとの対話を行っています。また、2022年度に実施したサプライヤーへのGHG排出量調査結果を踏まえ、2023年度は調査とともに排出量の算定支援を行いました。こうしたサプライヤーとの協働が高く評価され、CDPの「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」にも2年連続で選定されました。

カーボンニュートラル達成は決して容易ではありませんが、まずは2030年度のGHG排出量削減目標を確実に達成し、生産工程における省エネに注力しながら、商品の小型化・高効率化の追求や脱炭素思想に基づくものづくりを推進することで、経済価値と社会価値をともに向上させていきます。